

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391100100		
法人名	社会福祉法人昌明福祉会		
事業所名	グループホーム 結		
所在地	愛知県名古屋市長区寛政町6丁目25番地		
自己評価作成日	平成29年11月16日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&amp;liyosyoCd=2391100100-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&amp;liyosyoCd=2391100100-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成29年12月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>「明るさと笑顔あふれる場所づくり」に努めます」をモットーに運営を心掛けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人とのふれあいを大切に、かけがえのない時間を大切にします</li> <li>・安全で、清潔感に留意した生活の実現努めます</li> <li>・地域の皆様に信頼される事業所として、質の高いサービスを目指します</li> </ul> <p>「福祉は人 人は心 心とこころ」という理念のもと 利用者様のこころと向き合うことを大切にし、自身の人生観を養い、人としての成長を職員一同目指して行きます。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービス、サービス付き高齢者住宅、地域包括支援センターが併設された複合施設の2階にホームが位置している。近くには、荒子川公園や大型ショッピングセンターなどがあり、日常の散歩や買い物など楽しみながら生活支援ができる環境にある。ホームのドアを挟んで小規模多機能型居宅介護事業所があり、行事やレクリエーションなどを一緒に楽しんでいる。職員は、入居者が日々の暮らしの中で、「今～がしたい」という思いに応え、「できることは自分で」、「お互いに助け合っていくように」、「地域に出ていく」を心に刻み、いつまでも元気で生きいきと過ごせるように、心から入居者と向き合いケアに繋がれるように努めている。絵の好きな入居者が描いた絵が廊下に飾られ、落ち着いた雰囲気空間となっている。窓越しに外の景色が眺められるコーナーに大きなソファが置かれ、腰掛けてテレビを見たり、食卓で新聞を読んだり、入居者同士でお喋りを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごしている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念の唱和を行い、全職員が理念を共有できるよう努力している。	法人のコンセプトを基に事業所独自の目標を設定し、朝礼で唱和し、共有して日々の実践に繋げるようにしている。入居者が心身ともに健やかに過ごせるよう職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちを持ってケアをするように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の傾聴ボランティアの方や近くの幼稚園との交流、地域のイベントに参加・見学などを通して地域との関わりが続けられるようにしている。	法人本部が町内会に加入し、地域情報を待っている。毎年保育園の運動会や敬老会の行事を通して交流を続けている。荒子川公園で開かれる季節のイベントに出掛けたり、太鼓やパチンコ、化粧、書道など地域のボランティアを受け入れ、地域の方との関わりを大切にしている。また、実習生を受け入れ地域に貢献できるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護事業所の部会に所属し、毎年介護フェアなどのイベントに参加し、認知症や介護についての理解や支援の方法について啓発したり、相談に乗ったりしている。一年に一度「家族会」を開催し家族間での交流も図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の町内会・民生委員さん・老人会町さんなどの参加を得て、活動している。しかしあまり参加率はよくない。	入居者や家族、民生委員、老人会長、地域の有識者、いきいき支援センター職員の参加を得て、小規模多機能と合同で年6回実施している。活動報告の他に、健康教室、感染予防、防災対策などの勉強会を取り入れ、情報交換をしている。今年度、運営推進会議の中で家族会を行い、家族の出席が多く好評であった。議事録は、ファイリングして玄関に置いてある。	運営推進会議に参加できなかった方には、結の会のたよりなどを利用して会議録を載せたり、年間計画などで予定を知らせたりして、より多くの家族が参加し、開かれた交流ができるよう事業所から積極的な発信の機会を作るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム単独では市町村と連携をとることも少ないが、併設の小規模多機能型居宅介護を通して市長村との連携を密にしている。(虐待ケースなど)	更新手続き代行の折に、行政担当者に指導や助言を得ている。また、機会あるごとにサービスの内容を伝えたり困難事例の相談も受けたりして、協力関係を深めている。市主催の研修には積極的に参加している。また、研修会には職員が講師として依頼されることも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接身体拘束は行っていないが、エレベーターのロックは行っている。窓にクレセントキーをかけた2階からの転落防止を行っています。	身体拘束のマニュアルを通して意識を高め、スピーチロックに配慮した環境造りに努めている。日々の申し送り時や、機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図り、入居者一人ひとりの安全と拘束感のない生活が出来るように心がけている。言葉の拘束や心の拘束に注意する等その人にあったケアができるように努めている。センサーマット使用については、家族に説明と同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティングなどを通じて、虐待についての話はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用している利用者様がい たりしたため成年後見制度の概要については、 全職員に簡単な概要を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書は管理者や計画作成 担当者が責任を持って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	ご家族様が来られた時など意見を聞いたりし、運 営推進会議へも参加してもらっている。名古屋市 の名介研が実施しているユーザー評価に参加す るなどして利用者の意見を反映する努力をして いる。	入居者からは日々の関わりの中から、家族からは面会 時や行事、運営推進会議、家族会等機会あることに意 見や要望を聞くようにしている。ケアや接遇などについて 事業所独自のアンケートで満足度を調査し、結果を運営 に活かすようにしている。意見や要望は記録をして、カン ファレンス等で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出し合っている。必要 に応じて個人面談をして対応している。	日々の業務の中や申し送り時に積極的に聞くようにして いる。月1回の職員会議時に職員からの意見や提案を 聞き、見直しや改善に向けて話し合い、運営に反映させ ている。自己評価の機会に職員との個別面談をして、将 来に対する目標や意見、要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	常に環境については意見を出し合っている。 就業規則などに付いても意見を出し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員研修を定期的に行い(内部研修、外部研 修)、全職員がスキルアップできるようにしてい る。しかし、内部研修は終業後の為参加率が低 い。外部研修も人員の確保が困難な時は出せな い時もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	港区事業者連絡会の施設部会に参加して、情報 交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントや面接を行い、状況把握したうえで支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や思いに耳を傾け、支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・計画作成担当者等がご家族様とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いたうえで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に対して適切なケアの提供を実施しており、状況に応じてサービスの見直しを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも様々な場面において、希望を聞いたり意見をもらったりしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り今迄の生活を考慮して支援している。	入居者のこれまでの生活歴を把握したり、本人や家族から情報を得て、本人が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。毎月家族と月命日のお参りに出掛けたり、友人が来訪したりなど継続的な交流を大切にしている。お米を研いだり洗濯物を畳むなどの家事をしたり、編み物をして過ごしたりして、今まで培った経験を楽しみながら日常に活かすような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人数が少ないといっても一つの社会には変わらないので、そのつもりで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限りの支援をしていく。利用者様が亡くなった後も法人で開催している秋祭りに参加して頂いたりとその後の精神的なフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全体を見つめながら、その人の課題や要望を感じ取れるようにコミュニケーションをとっている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートや朝礼を活用し職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りの情報を把握して支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の把握については、すべて記録して職員全体で周知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にのっとりモニタリングを行うようにする。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を記録した個別記録を基に、家族の意見もふまえて、担当者や介護計画作成者で検討し介護計画を作成している。入居者がより良い暮らしができるよう月1回、短期目標を設定しモニタリングをしている。介護計画は6か月毎に見直しを行い、必要に応じて随時見直している。状況に応じて、医師や看護師に意見を求めケアに活かしている。どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については職員で共有し、良い支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の様々な部署と連携して、課題に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議参加者や、近隣学区の民生委員さんなどと連携して情報を得たりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関と連携して、健康管理に努めている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回、提携医による往診がある。歯科は週1回の訪問があり必要に応じて受診できる。看護師とも連携を取り健康管理に努めている。健康状態に変化があった時は、24時間対応で医師や看護師と連絡を取り、速やかで適切な医療提供に努めている。専門科については家族の協力により受診を依頼している。受診後は看護師に状況報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設小規模多機能居宅介護の看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内の医療機関を通じて、適切な対応をして外部医療機関との協働を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に当施設では重度化した場合や終末期のあり方については本人・ご家族と相談し、主治医とのモニテラなどを通して今後の方針を細やかに決めている。	入居時に重度化した場合や終末期についての説明をしている。重度化する可能性がある場合には、早めに家族と主治医、看護師を交えて話し合いを重ね方針を確認し、可能な限り希望に添う支援をしている。今後、見取りの研修に積極的に参加し、職員間で共有し医療体制を整えていく方向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内の医療機関と連携して対応している。急変時の対応の仕方などのマニュアルは職員に渡している。病院との連携をとる時は各職員が経験できるように実践的な指導も行っている。(介護要約の作成など)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行い、地震や火災などの災害に関し訓練を行っている。運営推進会議時にも周知し、津波などの避難時に事業所の建物に避難しても良いことなどの協力することを伝えている。	年2回、併設の施設と合同で昼間、夜間を想定した訓練を実施している。運営推進会議でも防災についての話し合いがされている。地域住民には、事業所の建物が耐震、耐火の基準を満たしていることから地域の一時避難施設として利用できることを説明している。備蓄品は、3日分を確保し各階には自販機を置き災害時の備蓄品の一部としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の個人情報保護についての取り決めに基づいて実施している。	「人生の先輩」を基本に、入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている。職員は、日々の朝礼で、特に雑になりがちな言葉使いに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使い」をするよう確認し、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に利用者様の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合をなるべく出さないようにし、個人個人を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の交換など、常に心がけている。汚染時には速やかに更衣して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に楽しめるように、準備できることはその利用者に合わせ手伝って頂きながら食事をし、食器洗いも職員と一緒にできるようにしている。	毎日の食事が楽しみになるよう栄養士により献立が立てられ、厨房で調理された食事を事業所で陶器の器に盛り付けをしている。事前準備や後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にしている。誕生会にはお茶会や、正月には餅つきとイベントを楽しんだり、たこ焼きやカステラなどのおやつを職員と一緒に作って楽しんでいる。職員は、喫食状況や雰囲気などに配慮しながら食事介助をしたり見守りをしながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作った栄養コントロールされた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、実施している。歯科衛生士から口腔ケア指導を定期的に受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄に合わせた支援を行っている。	座位での排泄支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、仕草や表情なども見逃さないようにして支援をしていくように努めている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動を心掛けている。又排便の周期を把握し、便秘にならないよう排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望を聞きながら、身体清潔保持のために入浴支援を行っている。	入浴は週2回夕食前の時間に実施している。希望があれば臨機応変に対応している。冬季はヒートショックに配慮したり、就寝前に足浴をして身体を温め気持ちを和らげるなどして個々に合わせた入浴を支援している。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠がとれるような環境作りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認したうえで服薬管理し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の利用者様の興味や趣味などを伺いながら出来るだけ楽しめる活動がして頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの保育園の運動会や地域の行事に参加する為に外出するのを支援しています。日常的に散歩できる機会もつくれるよう努力しているところであります。	天候が良い日には、近所の神社に出掛けて地域の方と挨拶や会話をし交流を図っている。普段行けない所や外食は家族の協力を得て外出したり、ブルーボネットに出かけ桜まつりやラベンダーフェアーなど季節の花見や秋祭りも楽しみの行事の一つになっている。	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけるよう支援については、検討の余地があると考えられる。ベランダで菜園を楽しんだり、四季の移ろいを感じながら職員と一緒に周辺を散歩するなど、日常的に外に出る機会の工夫を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を実施している方もいるが、ご本人の希望をくみ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんど実施していないが、希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の環境作りは常に心がけている。	リビングは大きな掃出し窓で採光が入り明るく見晴らしもよい。食堂と居間がワンフロアで風通しが良く、入居者の動きや気配がよく見渡せる。リビングには、黄色の大きなソファがありテレビを見たり景色を見たりするのにびり過ごしている。リビングの壁には、絵画や季節の行事の作品や手作りカレンダーが飾られ、廊下には入居者が描かれた絵画が飾られ洒落た大人の空間を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置などを考え、できる工夫を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については使い慣れて物を自宅から持ってきていただいたりして、気持ちよく過ごせるように配慮している。季節感を感じて頂けるような飾り付けを入居者様と一緒に作成し共有スペースに飾り付けています。	居室は、広く開放感があり大きな掃出し窓から採光が入りとても明るい。使い慣れた筆筒やテレビなど自宅で使用していたものを持ち込み、好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。清潔保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての人に『安心』『安楽』な環境を提供し、心地よく生活できるように支援している。		